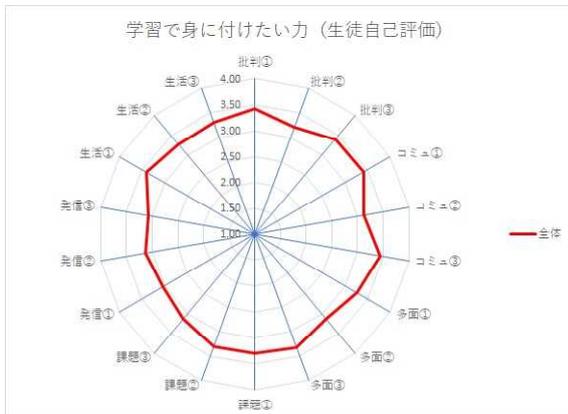


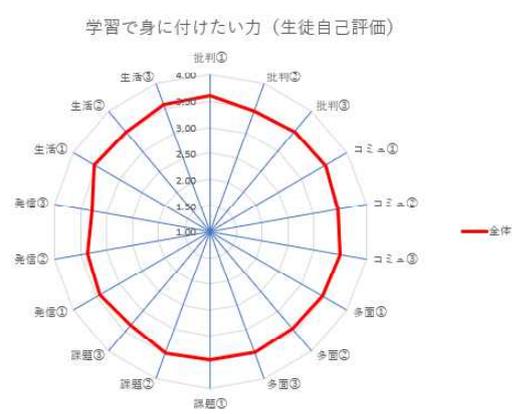
大曲南中学校 ESD「学習で身に付けたい力」についてのアンケート結果

令和7年2月

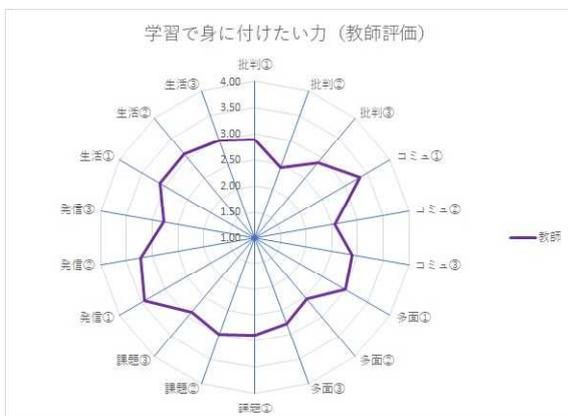
- 「批判的に考える力」
 - ①生活や学習の場で「どうしてだろう。」「これでよいのか。」と疑問をもつ。生活や学習の
 - ②自分の考えを吟味し、再構築することができる。
 - ③他の人の意見を聞いたり、話し合い活動をしったりすることにより、他の人の考えと自分の考えの共通点や相違点がわかり、合意形成したり代替案を提案したりすることができる。
- 「コミュニケーションを行う力」
 - ①話し合い活動などで、自分の意見を積極的に話したり、他の人の意見を聞いたりして、意見交換することは楽しい。
 - ②授業中や集会などで、声量、抑揚、話す速度、アイコンタクトなど相手を意識しながら話す。
 - ③周りの意見を聞き、自分の考えを見直し、相手に伝えるなどの双方向の話し合い活動をする。
- 「多面的・総合的に考える力」
 - ①課題（物事）をメリット・デメリットの両面から見る。
 - ②課題（物事）を、1つの見方だけではなく様々な切り口から見て、自分の考えを総合的に創り出す。
 - ③課題（物事）に対して、自分の意見をはっきり言ったり、他の人の意見を聞いたりする話し合い活動を通して、様々な情報を基に、協力してよりよい考えを生み出す。
- 「課題を見つける力」
 - ①日頃、ニュース等の報道や世界の出来事について興味をもったり、疑問をもったりすることがある。
 - ②日常生活の中で、「これはどうなんだろう?」「ここが不思議だ?」と思うことがある。
 - ③教科や総合的な学習の時間において、疑問に思ったり、不思議だと感じたりすることから、探究する課題を設定することができる。
- 「発信する力」
 - ①学習したことや調べたことを、学級内や校外の人たちに伝える。(授業、集会、学習発表会、南中祭、中学生サミット、他の発表会 など)
 - ②調べたことを新聞やレポート、プレゼンテーション、動画等に工夫して分かりやすくまとめ、発信する。
 - ③学んだことや考えたことを、伝える対象者を意識して、誰でも分かるように筋道を立てて発表する。
- 「生活に活用する力」
 - ①学校で学んだことから、自分のとるべき行動を考え、実行している。
 - ②学校以外の家庭や地域で、学校で学んだこと意識して行動する。
 - ③今、自分が行っている取組は、SDGsの達成につながる。



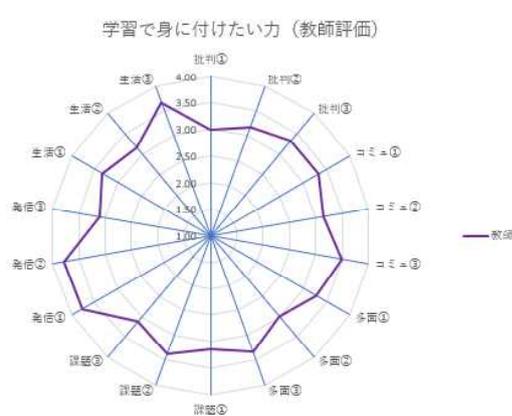
令和5年度 (生徒)



令和6年度 (生徒)

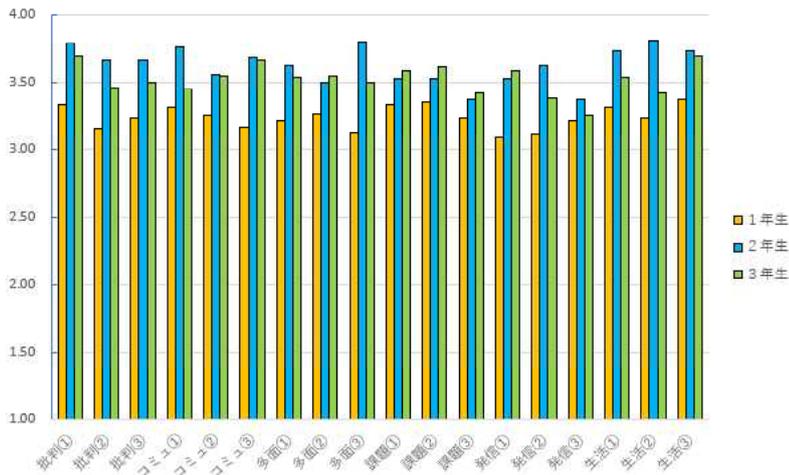


令和5年度 (教師)



令和6年度 (教師)

学習で身に付けたい力（学年ごと）



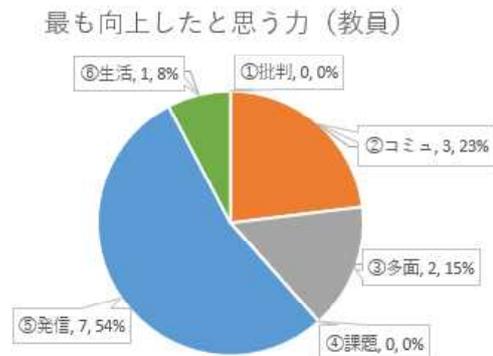
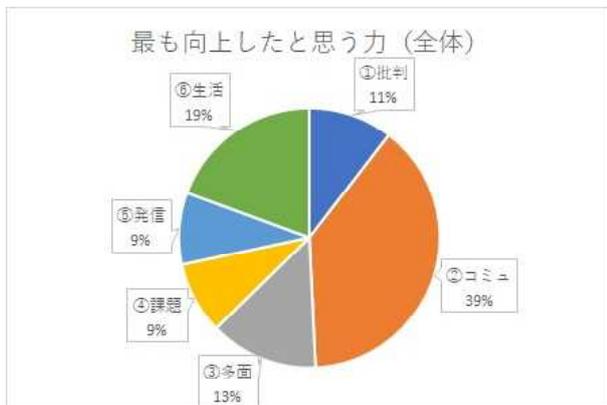
※2024 資質・能力ごとの平均生徒

- 批判的に考える力…3.51(3.34)
- コミュニケーションを行う力…3.49(3.33)
- 多面的・総合的に考える力…3.45(3.24)
- 課題を見つける力…3.43(3.24)
- 発信する力…3.36(3.08)
- 生活に活用する力…3.54(3.33)

教師

- 批判的に考える力…3.17(2.74)
 - コミュニケーションを行う力…3.33(2.93)
 - 多面的・総合的に考える力…3.21(2.78)
 - 課題を見つける力…3.21(2.93)
 - 発信する力…3.56(3.15)
 - 生活に活用する力…3.38(3.07)
- ()は2023年度

○この1年間の学習で、次の6つの力の内、あなた自身が最も向上したと思う力はなんですか。1つ選んでください。



考察（島田私案）

- ・全ての「身に付けたい力」において、生徒も教師も昨年より高い評価になっている。
- ・全体的に2年生の評価が高く、1年生が低い。1年生は、ESD/SDGsに今年から取り組んだので、「身に付けたい力」の意識が低かったのではないかとされる。
- ・「批判的に考える力」は、生徒は高い評価である。教師の評価は、生徒に比べれば低いが、昨年より高くなっている。ただし、生徒の高い数値ほどの成長は感じられない。「批判的に考える」（自分の考えを再構築、代替案を提案する等）のために、自分の考えをもって話し合いを行い、最適解を見出す活動をいっそう充実させることが必要であると思われる。その際、ICTの活用をいっそう進める必要がある。
- ・「コミュニケーションを行う力」は、バランスよく向上している。生徒は「最も向上した力」で、「コミュニケーションを行う力」を挙げている生徒が多い。コミュニケーションの中で、批判的に考える力を発揮できるような、コミュニケーションの質を上げていく必要があると思われる。
- ・「多面的・総合的に考える力」は、「③課題（物事）に対して、自分の意見をはっきり言ったり、他の人の意見を聞いたりする話し合い活動を通して、様々な情報を基に、協力してよい考えを生み出す。」について、2年生の評価が特に高い。「ミステリー授業」や「エコシティを設計しよう」の成果が出ているのではないかとされる。「②課題（物事）」を、1つの見方だけでなく様々な切り口から見て、自分の考えを総合的に創り出す。」は、3年生が高い。「SDGs商品開発で」、まさに「多面的・総合的」に考えた結果であると思われる。
- ・「課題を見つける力」が、本校の最大の課題である。教員評価で「最も向上した力」として挙げた先生がいない。ある意味、ESDカレンダーや、ESDストーリーマップの弊害であるとも考えられる。生徒は「与えられた課題」を、「与えられたルール」に沿ってこなしているだけ。そうならないように、「課題設定」の時間を充実させたい。また、総合的な学習の時間だけでなく、教科等でも生徒が課題を設定し探究する授業を構築しなければならないと考える。
- ・「発信する力」は、生徒より教師の評価が高くなっている。生徒の評価は最も低い。教師は、生徒全員の振り返り等を見てこの評価を出したと思われるが、生徒は自分の振り返りしか見ていないので、自分だけの成果物や発表を振り返って評価を低く出したものと思われる。生徒の振り返り等を公の場に出す工夫が必要であると思われる。コンクール等の活用も考えられる。動画を作成することも考えられる。
- ・「生活に活用する力」は、生徒も教師も高い評価をしている。特に生徒の評価が最も高い。これは、学校で学んだことを家庭で共有したり実践したりできているためではないと思われる。意識変容とともに、行動変容もできていると思われる。